

ウッディチキン／札幌例会

『例会レポート 123』

日 程	2017年6月14日(水)
会 場	『株式会社菊池中央スタジオ』 札幌市中央区北2条西2丁目1-5 リージェンビル2F
参加者数	約49名（内県外10名）
講演会内容	PM20:00～21:40 ・伊藤代表のお話 講演「今日を精一杯生き、明日への希望を持つために」 堂園メディカルハウス 院長 堂園 晴彦 様
親睦会	PM20:00～



ウッディキッチン事務局

文章・写真提供／向井 健介

<http://woodychicken.com>

info@woodychicken.com

晴天に恵まれた札幌！

不快指数ゼロ、汗をかいてもすぐ乾く、最高の気候でした！

昨年同様の会場に 50 名の仲間が集まりました。

司会進行は、今年もアルティの津田さんです

いつもありがとうございます。



伊藤さんから活動報告

・熊本支援の件

3月に熊本に久保さんと北田さんの3名で行ってきた。昨年の9月に引き続き、これまでに集まっていた210万円を7名の方(お店やサロンが倒壊している方たち)に30万円ずつ寄付した。今月で1年以上経過したがまだまだ復興には時間がかかるのが現状です。今後も引き続き募金活動をしていく。

・フィリピンの件

3年目になった。僕たちの小さい基地ができた。「絆サロンインフィリピン」

・札幌メンバーにウッディチキンの紹介

現在全国14拠点で活動している。魂の向上と積徳。



講演「今日を精一杯生き、明日への希望を持つために」

堂園メディカルハウス 院長 堂園晴彦先生

先生の簡単なプロフィール

36歳の時鹿児島に戻り、鹿児島大学産婦人科医局に入局しました。1991年には、父壮意が病に倒れた為、堂園産婦人科を継ぎました。とはいえ、当時の堂園産婦人科の建物も老朽が進んでいたため、物置として使われていた中古ビルの1階を改装して「診療所」とは名ばかりの畳6畳の小さな場所からスタートしました。鹿児島大学病院で手術や放射線などの治療をしたがんの患者さんが再発すると、この小さな診療所を訪れ、外来で点滴などの治療を受けていました。そのうち癌が進行し外来の治療を受けられなくなると、患者さんの希望を受けて癌の在宅訪問治療を開始しました。

当時は介護保険制度も整っておらず、また在宅訪問治療もとても珍しい時代でした。

医師1名、看護師3名の限られたスタッフでしたが、午前と午後の診察の間に往診に出かけ夜間も患者さんからの連絡があればすぐに患者さんのご自宅に駆けつけました。在宅で看取った患者さんのお通夜の席でご家族から、「先生、是非入院施設を作って下さい」との声をかけられ、それがきっかけとなり、ホスピス建設の構想が具体的になり始めました。

ホスピス機能を持つ「堂園メディカルハウス」が完成する1年前の1995年、父壮意が逝去。吉野の幼稚園・保育園の理事長を引き継ぎます。翌年11月3日文化の日に19床のホスピス診療所「堂園メディカルハウス」が竣工しました。

手のぬくもりとおもてなしのシャワーを合言葉に、もう一度いきたくなる・そこで死にたい病院を目指しました。

「どこでもドア」ならぬ「どこでもケア」を掲げ、入院・在宅・通院すべてにおいて患者さんが望む医療を提供できるようにとの熱い思いがありました。有床診療所でのホスピスは日本初の試みでしたので「3年で潰れる」との批判も多くありました。その批判に負けぬためそしてなにより患者さんの為、「医師は24時間365日患者さんの為に生きなくてはならない」を口癖にシャカリキに取り組むさなか、過労から大鬱病を発症…(ノド)シクシク…一変して「死にたい」が口癖の暗黒時代となりました。以後3年鬱病に苦しみましたが、2005年11月10日、「脳の中に光が差している」との言葉をきっかけに快復。患者さんとの出会いに感謝しながら治療に取り組み、外来・入院・在宅を同一スタッフとするコンビネーション緩和ケアシステムにより、年間100名前後の癌患者さんを看取り、在宅死率約25%を実現しました。

年齢を感じさせない立ち振る舞いや表情で、とってもエネルギーを感じました。

とにかく元気いっぱい笑顔満開でお肌ツヤツヤの堂園先生。



今は3人に1人は癌で亡くなる。

そして社会の7割以上の方は、癌はこわいと思っている。

でも現在の癌治療は、体の痛みはほとんどとれるように進歩している。

しかし、心の痛みを取る方法がない。。。

「今から、死のシミュレーションをします！」と

初めの4枚の色紙を渡していただき、それぞれ四分の一に切り取って次の事を4つずつ書いてくださいと説明がありました。

青色・・・物質的に大切なもの4つ（例：家、車、ギター、お金など）

緑色・・・自然で大切なもの4つ（例：水、空気、花、木など）

赤色・・・大切な活動4つ（例：趣味、仕事、クラブ、学校など）

黄色・・・大切な人4名 1枚に固有名詞で一人ずつ書く（例：すずききょうこ）

意外とすぐに書くことができました。

そのあと、オルゴールのようなBGMのなか堂園さんの朗読がはじまりました。いい声です。。

詳しくお伝えすることは難しいですが、おおよそ30分ぐらいだったでしょうか？

とにかく物語の主人公が、がんの告知を受けて最後に死を迎える。。

そのストーリーの中で、先ほど書いた紙を一つずつ手放していく。。

癌の告知を受けたらきっとこんな感情になるんだなと思いました。

とても悲しくつらい気持ちになりました。。

会場の中でもあちらこちらで泣いている声が聞こえました。

最近父や母を亡くした方や、自身が癌の告知を受けた方など。。

肯定的な別れをした人は、その後の人生を肯定的に送りがちであり

否定的な別れをした人は、その後の人生を否定的に送りがちである。と堂園氏

この25年間多くの方を看取るとき、肯定的な別れができるように努力してきました。

小さいお子様にも少しずつ、現実を伝えて受け入れてもらえるように。。

そう考えた先に、「サンピラー」や「水平線の向こうから」などの絵本ができた。

現在は子供たちや、両親などに読んでもらっている。

ほとんどの方は死について考えたことはないが、「生あるものは皆死ぬ」自然の摂理。

今一度じっくり考える機会となりました。

だからこそ今この一瞬を懸命に生きる。その時間を誰かのために使う。

とても感慨深い講演会でした。

先生ありがとうございました。



懇親会

堂園先生も交えて懇親会スタート！ 乾杯は、今回から札幌代表になられた温泉さん。



途中、ミスエッセンスの黒木さんからまゆみ先生の本の紹介を頂きました。
最後は、久しぶりに中西さんに締めの一言いただきました。

以上です。
ウッディ事務局 向井健介

